



デフリンピック啓発について

～しながわデフリンピック 認知度120%プロジェクト～

区 民 委 員 会 資 料
令 和 6 年 1 1 月 2 5 日
文化観光スポーツ振興部スポーツ推進課

東京2025デフリンピック
大会エンブレム

1. 目的

東京2025デフリンピックが開催されるに伴い、デフリンピックの認知度向上と聴覚障害の理解促進を図り、共生社会の実現に寄与する。

スポーツや文化を通して、
聴覚障害に対する理解を深める
きっかけづくりを行う。

文化・スポーツイベントにおいて、区民が
**障害の有無に関わらず一緒に参加して
混ざり合っている状態を目指す。**

2. 現状

デフリンピック認知度が16.3%（令和3年、日本財団調査）認知度向上のため事業を実施

令和4年度

①デフリンピック
啓発パネル作成・展示



デフリンピック啓発パネル作成・展示

令和5年度

②デフスポーツ日本代表強化合宿交流

7月/600名 デフサッカー日本代表エキシビジョン
マッチ、交流

③デフスポーツ&アートフェア

10月/延1,600名
デフスポーツ体験コーナー、
オンテナ活用、
アートワークショップほか



アートワークショップ

令和6年度

【R6水辺の観光フェスタと同日開催】

・10月/1,000名
（観客席増設、東京都デフ啓発ブース出展）

【R6あつまればらと同時開催】

・11月/600名（アリーナ）、160名（ひらつかホール）
オンテナを活用したしゅわしゅわデフリンピックのダンス、
ミルオト体験、スタートランプ体験などを追加

≪他部署連携≫

（文化観光戦略課）ろう者による写真展・しぼり染めワークショップ・餃子販売を実施
（障害者支援課）手話体験



R6デフスポーツ日本代表
強化合宿交流



ダンスの様子



R6デフスポーツ日本代表
強化合宿交流



区公式デフリンピックサポーター



④区公式デフリンピックサポーターの任命・活用

イベント時におけるデフリンピックの啓発、SNSでの発信

⑤デフ啓発ブース展開（区民まつりにて3回実施）

区内イベントにおける啓発ブース展開

⑥工事仮囲いに手話アート設置 10月/文化観光戦略課
工事現場の仮囲いに手話をモチーフとした作品を展示



仮囲いアート（東五反田）

3. 課題

- (1) イベントには関係者の方が多く参加してくれるが、デフリンピックの認知度を上げていくには、あまり興味のない層へも知ってもらう必要がある。
- (2) デフスポーツは一見違いが分からないため、啓発にも工夫が必要となる

4. 今後の展望

- (1) 来年のデフリンピック本番に向けて、外部団体や他部署との連携をより強めていく
連携先例：各デフスポーツ競技団体、品川区聴覚障害者協会、東京都、文化観光戦略課、障害者支援課 ほか
- (2) 大会終了後も、デフスポーツをパラスポーツの一つとして事業を展開することで、障害の有無に関わらず誰もが一緒に参加できる機会を創出し、インクルーシブな社会の実現に文化スポーツの観点から寄与する。



デフ啓発ブース



ミルオト体験